

オムロンでは 2050 年に温室効果ガス排出量ゼロを目指す新目標「オムロン カーボンゼロ」を設定しています。その目標達成に向けた取り組みの一つとして、京阪奈イノベーションセンタの執務室照明の LED 化を実施。アンビエント照明を主体に太陽光なども取り入れながら省エネを図り明るく快適な執務環境を実現しました。

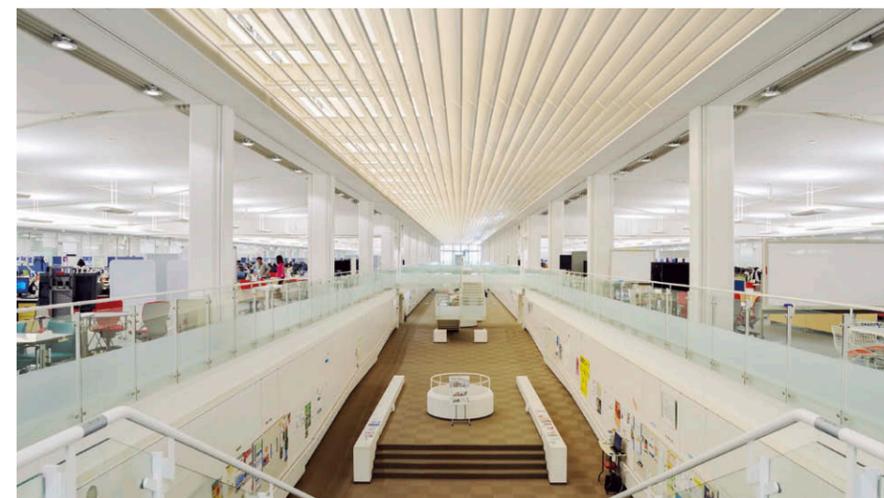
京阪奈イノベーションセンタは、関西文化学術研究都市の中央部に位置し、「協創と集中」をコンセプトにオムロンの最先端コア技術の研究や技術開発を行うグローバル拠点として機能しています。開かれた研究所らしく、執務室として、無柱の 2,300㎡の大空間が 2 エリア広がり、その中央には研究員がデスクを離れて思考めぐらせたり議論したりできる 9m × 120m のプロムナードが設けられています。



【物件概要】  
所在地：京都府木津川市木津川 9-1 けいはんな学研都市  
執務室延床面積：約 6,000 ㎡  
施主：オムロン(株)  
施工：(株)きんてん  
リニューアル完成：2018 年 2 月



執務室奥のミーティングスペースのアンビエント LED 器具照明①と間接照明②



解放感のある中央プロムナードの日中の照明①②③



執務室を真横から望む。

LED ライトエンジンダウナライト④による通路照明。

アンビエントLED器具照明①と間接照明②によって明るく快適な執務環境を創出。

### アンビエント照明を主体に執務空間の省エネと照度向上を実現。

今回はタスクアンビエント照明からの改修工事で、アンビエント照明を主体とした省エネ化と空間照度の向上を大きな目的としています。実機試作品での試験、評価を繰り返した結果、天井面に光を拡散しグレアを抑えて明るさを高める、2 連 LED バー内蔵のアンビエント照明を採用しました。ペンダント形のボックスはスリム化を図り、建築に溶け込みメンテナンスが容易な器具構造を開発。既設の照明装置、施工方法の踏襲による省施工性にも配慮しました。TENQOO シリーズの間接照明、ダウンライトとともに色温度を昼白色 (5000K) へ統一し、活発なコミュ

ニケーションを促す雰囲気を出しています。また平均照度は 500 ルクス (タスクなし) を確保し執務空間全体の明るさ感を向上しました。中央を走るプロムナードはルーバー・スクリーンで直射光制御され、不必要な明りをカットします。周囲に設置されたダウンライトはあかりセンサーにより自動調光が行われ省力化を実現。解放感のある吹き抜けスペースが執務室のアンビエント照明と間接照明を調和し、知的活動にふさわしい雰囲気を出しています。



① アンビエント LED 器具照明



③ LED ライトエンジンダウナライト

主な掲載器具一覧				
設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考
室内	アンビエントLED器具(特注)	① LEEM-40993N-01 (LED バー)	112	消費電力：123W
	TENQOOシリーズLEDベースライト	② LEKT407693HN-LD9	228	消費電力：38.5W
	LEDライトエンジンダウナライト(特注)	③ LEEDD-17031ZK	114	消費電力：32.4W
	LEDライトエンジンダウナライト	④ LEEDD-16001M-LD9	112	消費電力：18.5W